令和４年度

大分市社会教育委員会

【報告書】

《研究テーマ》
「人生 100 年時代」における生涯学習・社会教育
～人生を豊かにする学びの充実に向けて～

令和５年３月

大分市教育委員会 社会教育課

― もくじ ―

Ⅰ 研究テーマ …… P1

Ⅱ 研究経過 …… P3

Ⅲ 現在の大分市における生涯学習・社会教育
～「大分市生涯学習推進計画（第三次）改訂版」～ …… P4
1 高齢者教育の推進
2 地域子ども教育の充実
3 家庭教育支援の充実

Ⅳ 「人生 100 年時代」における生涯学習・社会教育が果たしうる
新たな重要な役割から考える大分市地区公民館の課題 …… P10
1 「人生 100 年時代」における生涯学習・社会教育が果たしうる新たな重要な役割
2 新たな重要な役割から考える大分市地区公民館の課題

Ⅴ 大分市地区公民館の課題解決に向けて …… P12
1 教室・講座等に参加していない人への学ぶ機会の提供【課題 1】
2 青年層への学ぶ機会の提供【課題 2】
3 ICT の活用について

Ⅵ 研究のまとめ …… P21

「人生 100 年時代」における生涯学習・社会教育
～人生を豊かにする学びの充実に向けて～
― 提 言 ―

1 全てのライフステージに応じ、切れ目のない学習の機会を提供する
2 障がいの有無や国籍等問わず、全ての人に学習の機会を提供する
3 さまざまな世代や立場の人が交流できる場を提供する
4 ICT を効果的に活用する

Ⅶ おわりに …… P24

Ⅷ 用語解説・参考文献 …… P25

【資料】 …… P26
【別表】 令和 4 年度 大分市社会教育委員

Ⅰ　研究テーマ

現在、日本人の平均寿命は男女ともに 80 歳を超え、2050 年には女性の平均寿命が 90 歳を超えると予測されており、「人生 100 年時代（注 1）」が到来すると言われている。それに伴い、これまでの「教育を受ける」「社会で働く」「定年後に余生を送る」といったライフステージではなく、より柔軟な生涯設計が必要になるとされている。また、新型コロナウイルス感染症の世界的流行において、会議や研修をはじめ医療の受診や公的手続き等に至るまでオンライン化が急速に進み、「超スマート社会（Society5.0）（注 2）」の到来が早まったと言われる中で、私たちの働き方やライフスタイル（生活様式）にも変化が生じている。

このように「人生 100 年時代」、「超スマート社会（Society5.0）」に向けて社会が大きな転換点を迎える中にあって、生涯学習の重要性は一層高まっている。また、人口減少や少子高齢化、地域コミュニティの希薄化や貧困・格差等、社会教育を取り巻く環境も大きく変化しており、これらの課題に対応した社会教育の在り方が問われている。

文部科学省では、「生涯にわたる一人一人の『可能性』と『チャンス』の最大化」に向け、職業に必要な知識やスキルを、生涯を通じて身に付けるための社会人の学び直しの推進など、「人生 100 年時代」を見据えた生涯学習の推進に取り組んでいる（注 3）。

大分市教育委員会では、生涯学習を支える社会教育施策を総合的・計画的に推進するための指針として、「大分市生涯学習推進計画（第三次）」を策定し、生涯学習の振興と社会教育の推進を図っている。本計画の期間は、平成 29 年度からの 8 年間だが、上位計画である「大分市教育ビジョン 2017」第Ⅱ期基本計画の策定を踏まえ、令和元年に中間総括を行い、「大分市生涯学習推進計画（第三次）改訂版」を令和 2 年に発行し、これをもとにさまざまな事業を行っている。

「人生 100 年時代」において人生を豊かに生きるためには、生涯を通じて自らの人生を設計し、学び続け、学んだことを活かして活躍できるようにすることが求められるが、大分市教育委員会が現在行っているさまざまな事業が、「人生 100 年時代」を見据えたものになっているのか、改めて考察する必要があるのではないかと考えた。

そこで、今年度の研究テーマを次のように設定する。

《令和 4 年度研究テーマ》

「人生 100 年時代」における生涯学習・社会教育

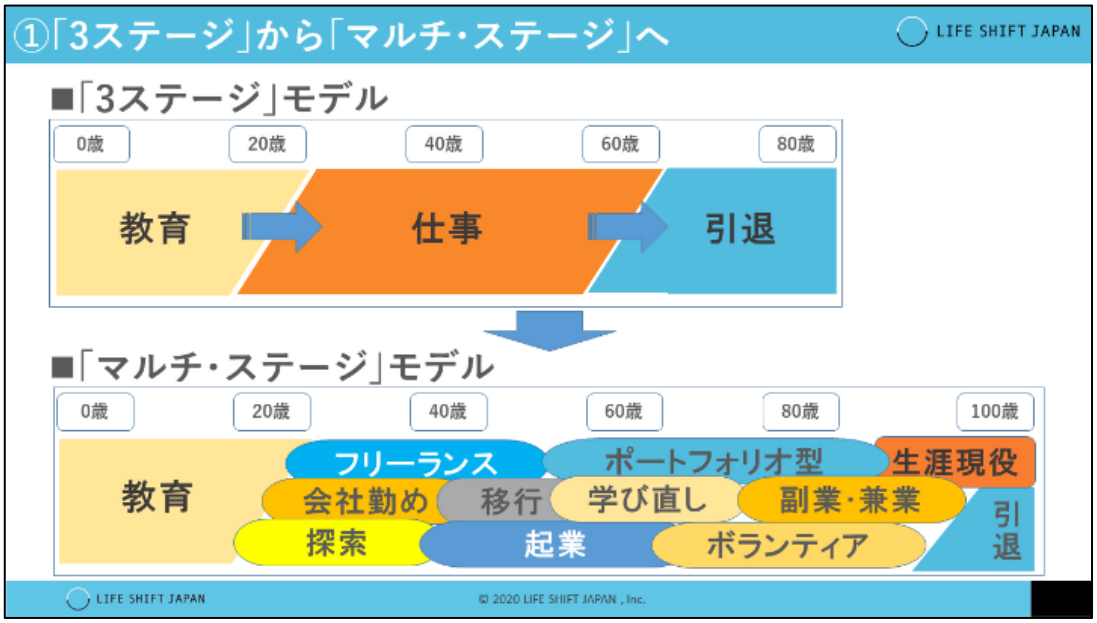
～人生を豊かにする学びの充実に向けて～

「人生 100 年時代」について

〈書籍『LIFE SHIFT 100 年時代の人生戦略』より〉

●人生設計　「教育」「仕事」「引退」の 3 ステージ（一方通行）から
マルチステージ（さまざまなステージを並行・移行）へ

［「3 ステージ」、「マルチステージ」イメージ図］



（書籍『LIFE SHIFT 100 年時代の人生戦略』を紹介しているサイトより）

「マルチステージ」～ 20 歳前後で社会に出てからは会社勤め、フリーランス、学び直し、副業・兼業、起業、ボランティア・・・など、さまざまなステージを並行・移行しながら生涯現役であり続けるというモデル

●「人生 100 年時代」で必要となるもの
→　・教育　・多様な働き方　・無形資産（⇔有形資産）

〈人生 100 年時代構想会議（注 4）中間報告より〉

●ある海外の研究では、2007 年に日本で生まれた子どもの半数が 107 歳より長く生きると推計されており、日本は健康寿命が世界一の長寿社会を迎えています。
●100 年という長い期間をより充実したものにするためには、幼児教育から小・中・高等学校教育、大学教育、更には社会人の学び直しに至るまで、生涯にわたる学習が重要です。
●人生 100 年時代に、高齢者から若者まで、全ての国民に活躍の場があり、全ての人が元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会をつくることが重要な課題となっています。

Ⅱ　研究経過

日　時	内容
①5 月 31 日（火） 14:00～16:00	○研究テーマ設定
②7 月 15 日（金） 14:00～16:00	○「人生 100 年時代」を見据えた生涯学習の推進 ・高齢者教育の推進 ・地域子ども教育の充実 ・家庭教育支援の充実
③11 月 4 日（金） 14:00～16:00	○第 2 回協議より明らかになった課題 ・公民館をはじめとする社会教育施設が開催する教室・講座に参加していない人への学ぶ機会の提供 ・青年層への学ぶ機会の提供
④12 月 22 日（木） 14:00～16:00	○今後の大分市における生涯学習・社会教育の充実に向けて」 ・青年層の受講者を増やすことの意義について ・大分市地区公民館における ICT の活用について
⑤1 月 19 日（木） 14:00～16:00	研究のまとめ 1 ・報告書の作成について
⑥2 月 28 日（火） 14:00～16:00	研究のまとめ 2 ⇒3 月 24 日（金）報告書を教育長に提出

大分市生涯学習キャラクター
ソーリンくん

Ⅲ　現在の大分市における生涯学習・社会教育
～「大分市生涯学習推進計画（第三次）改訂版」～

「人生　100　年時代」において、心身の健康維持のための高齢者教育の推進、学ぶ意欲やスキルを子どもの時から高めるための地域子ども教育の充実、健やかな子どもの成長のための家庭教育支援の充実が特に重要になってくるものと考えられる。そこで、大分市においてどのように施策を展開しているのか述べることとする。

1　高齢者教育の推進

「大分市生涯学習推進計画（第三次）改訂版」9 頁
【重点的取組】
〇生きがいづくりや学び直し等の学習機会の提供
　地区公民館や校区公民館での教室・講座、おおいたナイトスクール（注 5）、出前講座等を通して、生きがいづくりや学び直しの機会を提供します。
〇豊かな経験や技術を生かせる場の提供
　「おおいたふれあい学びの広場推進事業（注 6）」「体験・楽習・すこやか講座（注 7）」などの子どもの体験活動において、地域の講師や実行委員として経験、知識、技術を生かす場を提供します。

（1）大分市地区公民館主催　高齢者対象　教室・講座
①令和 3 年度　実施一覧

公民館	事業名	実施回数（参加者のべ人数）
大分中央	元気はつらつ体操教室	20 回（454 人）
大分西部	高齢者大学～インターネット入門～	5 回（45 人）
	高齢者大学～Web メールの使い方と Facebook 入門～	5 回（30 人）
大分南部	レッツいきいき健康講座	18 回（281 人）
南大分	さわやか健康体操	15 回（279 人）
大分東部	はつらつ健康体操	5 回（36 人）
明治明野	いきがい楽習塾	8 回（99 人）
大南	健康づくりピラティス～心も体もエクササイズ～	16 回（262 人）
	レッツ脳トレ！めざせ脳力アップ！	5 回（28 人）
稙田	七瀬大学	6 回（83 人）
	シニアのためのタブレット入門教室	5 回（47 人）
大在	高齢者生き生き学級	5 回（24 人）
佐賀関	出前健康教室	5 回（86 人）
野津原	のつはる七瀬大学	5 回（182 人）

（2）おおいたナイトスクール

①令和４年度　受講生（年齢別　申込締切時）

年代	稙田公民館　火曜日		コンパルホール　水曜日			鶴崎公民館　木曜日		総計
	英語Ⅰ	国語Ⅰ	英語Ⅱ	国語Ⅱ	国際科	ふるさと知ろう科	数学Ⅰ	
10								0
20			2	1	3	1	2	9
30	1	1	1	1	4	1	2	11
40	2	3	1		1	2	1	10
50	2		3	1		1	1	8
60	4	2	9	6		3	4	28
70	5	7	6	4		5	7	34
80	1	2	2	2		1	2	10
90								0
計	**15**	**15**	**24**	**15**	**8**	**14**	**19**	110
総計	**30**		**47**			**33**		

②受講生感想（令和３年度）　抜粋

・今年度、大分に引っ越してきました。地名も産物もあまり知らなかったので、ナイトスクールに参加して学ぼうと思いました。大変勉強になり大分の知識が増えました。9月以降、仕事のシフトが変わり、19時にたどり着かない日が多くなりました。後半あまり出席できずに残念でした。しかし、大分の魅力（街、人）を知ることができ、大分での生活を楽しめるようになりました。「大分人」として今後、大分ライフを楽しんでいきます。お味噌ができあがるのが楽しみです。

・社会人の学びの場として大変良い企画です。

・学ぶことは、楽しいですし、理解できるとまだ勉強したいと思うようになりました。

・生涯学習として市が開催することは、多大な意義があります。健康寿命は関心が高いですが、脳の若返りは、健全な市民を育てます。先生方の熱心さ準備、授業の情熱に大きな刺激を受けました。無料で受講できることは、大変助かります。市の財政は大変でしょうが継続されることを望みます。1年前に引っ越してきて、ナイトスクールに参加でき余暇を悩むことはありませんでした。意欲の高揚を覚えます。

・先生の熱心さにびっくりです。何回目かの人もおられるようですが、学び、同じ仲間で、こんなにハートがある方々がいてありがたいと思いました。寒くても「皆さまがいる」と思い来ていました。60歳の手習いでなく70歳前の手習い。本当にありがとうございました。

③受講者満足度

90.7%　～　閉校時、受講者アンケートで、「満足」「やや満足」と答えた割合

④課題と今後の取組の方向性

・課題～満足度は高いが、受講者アンケートの中には、「自分が学びたい内容をもっと取り入れてもらいたい」「質問の時間を増やしてほしい」など、講座内容への要望の声も聞かれた。

・今後の取組の方向性

～受講者増に向けて、生涯学習情報サイト「まなびのガイド（注８）」で周知を図るとともに、満足度のさらなる向上に向け、受講者アンケートの結果を踏まえて、講師と連携を取りながら各教科の講座内容を充実させる。

（ふるさと知ろう科：環境サイエンスラボ ）

（英語）

2 地域子ども教育の充実

「大分市生涯学習推進計画（第三次）改訂版」7 頁
【重点的取組】
〇子どもの体験活動の実施
　地域団体等が、自己の学習成果や経験を生かして、学校を中心とした身近な場所で、子どもの体験活動を中核とした「おおいたふれあい学びの広場推進事業」などに取り組みます。

〇地区公民館等、社会教育施設の教室・講座の実施
　地区公民館、少年自然の家、市民図書館、美術館、歴史資料館等の社会教育施設で、子どもたちに学習や体験の機会を提供します。

（1）大分市地区公民館主催 子どもの体験活動に関する 教室・講座
①令和 3 年度 実施内容
　※【資料】大分市地区公民館主催 子どもの体験活動に関する 教室・講座（令和 3 年度）

　※市が推進する施策に関わる子ども事業
　・おおいたふれあい学びの広場　　・体験・楽習・すこやか講座
　・子どもの読書活動に関する教室・講座　　・子どもの科学に関する教室・講座
　・夏休み子ども教室

（2）大分市社会教育施設 子どもの体験活動に関する 教室・講座等
①令和 3 年度 実施内容
　※【資料】大分市社会教育施設 子どもの体験活動に関する 教室・講座等（令和 3 年度）

（3）おおいたふれあい学びの広場推進事業
①令和 3 年度
　・公民館主体型～24 教室 23 校区
　・地域主体型～36 教室 33 校区

（城南校区：茶道）

②実行委員の感想

・子どもたちが地域の高齢者との交流・ふれあいを通して、色々な体験ができた。
・事業に参加した子どもたちの１年間の進歩は目覚ましいものがあった。
・子どもたちが興味をもちそうな内容を、地域の方の協力のおかげで実践することができた。
・学校、保護者、地域の理解と支援体制は強く、地域の教育力の向上につながっている。
・コロナ禍で活動が制限される中、子どもたちが積極的に参加し、有意義な活動ができた。

③課題と今後の取組の方向性

・課題～実行委員の高齢化や新型コロナウイルス感染症の影響により活動ができていない等の理由から事業の実施が難しい校区が出てきている。地区公民館の担当者と連携しながら、新たな地域人材の発掘など、実行委員会への支援を行う必要がある。
・今後の取組の方向性
～感染症対策を講じながら工夫して事業を実施した校区の取組を紹介するなど、コロナ禍でも子どもに多様な体験活動の機会を提供できるよう指導・助言を行う。また、地区公民館の担当者と連携しながら、地域人材の発掘や教室運営等についてのアドバイスをするなど実行委員会を支援していく。

（4）体験・楽習・すこやか講座

①令和３年度　実施内容

公民館	事業名
大分中央	親子てくてくウォーキング
大分西部	わくわくワンダーランド
大分南部	NANBU ふるさと体験村
南大分	三世代交流たこあげ大会
大分東部	多世代交流いきいき子どもフェスタ
明治明野	みんなであそぼう！明明わくわくランド
鶴崎	わくわくチャレンジ集会
大南	体験・楽習　in大南
稙田	わくわく科学フェスタ
坂ノ市	日吉原ふるさとコンサート
大在	21C のびのび大在っ子体験塾
佐賀関	関崎シーサイドウォーキング
野津原	野津原郁々（いくいく）堂

「みんなであそぼう！明明わくわくランド」

（1）実施日時　　令和3年7月3日（土）　8:50～12:00　※受付8:30～

（2）参加者・指導協力者

〇明治明野地区小学生2～6年生　24名

〇指導者・協力者　・明野スカウト会　・明治婦人会

・明野地区婦人連絡会　・明野地域包括支援センター

（3）実施場所　　明治明野公民館全館

（4）活動概要

	講師（協力者）	内　容
活動内容	明野スカウト会	ポイントラリー （わなげ・ポンプ押し・玉入れ、くもの巣ゲーム）
	明野地区婦人連絡会	ポイントラリー（昔の遊び）
	明治地区婦人会	ポイントラリー（昔の遊び）
	明野地域包括支援センター	ポイントラリー（高齢者疑似体験等）
	公民館職員	ポイントラリー（クイズと集合写真等）

（5）成果等　抜粋

・地域ボランティアと職員のサポートメンバー、子どもが一緒になって活動し、多くの場面で支えあい認め合う姿が見られた。子どもたちは、協力しながら全体的にいい表情で活動できた。

・ポイントラリー形式で活動する各ブースでは、地域の団体の方が趣向を凝らした内容で子どもたちを活動させた。子どもたちは、たくさんほめられたり励まされたりしながら達成感を味わうことができていた。また、協力者の方々が子どもたちにあいさつ指導をしたり、活動の説明を丁寧にしたり、子どもたちの集団活動を支援する場面がたくさん見られた。

3　家庭教育支援の充実

「大分市生涯学習推進計画（第三次）改訂版」7 頁

【重点的取組】

〇家庭教育支援事業の充実

多くの保護者が集まる場などで、発達段階における子育ての課題に対応した学習機会や子育てに関する情報を提供します。

（1）基本方針

①多くの保護者が集まる機会を活用した学習機会の提供

・絵本の広場～幼児健診時に保護者に対して絵本を通した親子の絆づくりについて啓発

・子育て講演会～就学時健診時に小学校就学前の子どもをもつ保護者対象の講演会

・思春期講演会～学校行事等に中学１年生の生徒をもつ保護者対象の講演会

②地区公民館を中心とした家庭教育支援の拠点づくり

・家庭教育学級の開設
・家庭教育学級講師派遣事業
・家庭教育学級リーダー研修会
・乳幼児家庭教育学級
・子育ての集い～子育て中の親と子育て支援者、育児サークル等の交流の場
・地域子育てネットワーク会議～地域の子育て支援者や団体等が地域の家庭教育支援事業についての意見交流や子育てに関する情報交換等を行う
・おおいた家庭の日推進事業　※【資料】おおいた家庭の日推進事業（令和３年度）

③子育て支援者の育成と活用

・ボランティア養成講座～託児ボランティア、読み聞かせボランティア

このように、大分市において高齢者教育の推進、地域子ども教育の充実、家庭教育支援の充実について、「大分市生涯学習推進計画（第三次）改訂版」を基に施策が展開されている。それぞれの事業についての課題はあるものの、回数や内容については十分に取り組んでいると言ってよいのではないかと考えられる。

Ⅳ 「人生 100 年時代」における生涯学習・社会教育が果たしうる新たな重要な役割から考える大分市地区公民館の課題

1 「人生 100 年時代」における生涯学習・社会教育が果たしうる新たな重要な役割

「第 11 期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理～全ての人のウェルビーイングを実現する、共に学び支え合う生涯学習・社会教育に向けて～（令和２年８月）」において、「人生 100 年時代」における生涯学習・社会教育が果たしうる役割は、従来の役割に加えて以下の役割がより重要になると述べられている。

ウェルビーイングの実現

ウェルビーイング：「個人」の幸せ＋ 周囲の「場」のよい状態

＜生涯学習＞	＜社会教育＞
「個人」の生涯にわたる自己実現を図る学習	学びを通じた「人づくり・つながりづくり・地域づくり」

生涯学習を通じた個人の成長と、持続的な地域コミュニティを支える社会教育は、ウェルビーイングの実現に密接不可分

社会的包摂の実現

貧困の状況にある子供、障害者、高齢者、孤独・孤立の状態にある者、外国人、女性など、それぞれに学習ニーズがある

▼

誰一人として取り残すことなく、学習機会を提供する

デジタル社会に対応

デジタルデバイド解消を含め、デジタルによる格差や分断のないデジタル化を実現する社会的要請

▼

国民全体のデジタルリテラシーの向上を目指す

地域コミュニティの基盤

リアル・オンラインの双方で、地域住民がつながる「場」として社会教育施設を活用し、共に学びあう社会教育

＋

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動への地域住民の参画（学校と地域の連携）

▼

「学び」を通じた、人と人とのつながり・絆の深まりが、地域コミュニティの基盤を安定させる

2 新たな重要な役割から考える大分市地区公民館の課題

大分市地区公民館の教室・講座の受講者や公民館利用者の現状として、固定化や高齢化が挙げられる。特に青年層の公民館利用や青年対象の教室・講座数が少ない。このことから、全ての人・全ての世代に学ぶ機会を提供できていない状況にあると言える。

〇大分市地区公民館 教室・講座 対象年齢について

・子ども対象・・・主として少年（小中高）を対象とした事業

・青年対象・・・主として青年（概ね 18 歳～29 歳ぐらい）を対象とした事業

⇒ 講座数が少ない ➡ 今後増やしていく方向である

・女性対象・・・主として女性のみを対象とした事業

・高齢者対象・・・主として高齢者のみ（概ね 60 歳以上）を対象とした事業

・成人対象・・・主として成人一般を対象とした事業

⇒ 比較的高齢者が多い

「人生 100 年時代」における生涯学習・社会教育が果たしうる新たな重要な役割から考えて、大分市地区公民館の課題として、「教室・講座等に参加していない人への学ぶ機会の提供【課題 1】」「青年層への学ぶ機会の提供【課題 2】」が挙げられる。

Ⅴ 大分市地区公民館における課題解決に向けて

1 教室・講座等に参加していない人への学ぶ機会の提供 【課題 1】

（1） 参加していない人とはどういう人をさすのか

・そもそも関心の低い人

・社会やライフスタイルの変化等により、人と人との「つながり」の希薄化、困難な立場にある人（貧困の状況にある子ども、障がい者、高齢者、孤独・孤立の状態にある者、外国人、女性など）

参加していない人のうち、大分市地区公民館は障がい者の生涯学習の推進について取組をはじめたところである。

〇大分市における 障がい者の生涯学習の推進

「令和 3 年度 大分市社会教育委員会」提言を受けて

・「指差しコミュニケーションボード【大分市公民館編】を、令和 4 年 3 月に、大分市地区公民館に設置した。

・公民館職員研修や会議を通して、障がい者の生涯学習支援について共通理解を図った。

（主な内容）

読書バリアフリー法
令和 3 年度 大分市社会教育委員会 報告書
令和 4 年度「生涯を通じた障がい者の学び支援事業」に係る
地域連携コンソーシアム会議（大分県社会教育課）

〔障がい者の生涯学習推進の令和 4 年度の計画〕

月	取 組	研 修 ・ 会 議
2021年度 3	〇指差しコミュニケーションボード【公民館編】 作成配付 〇社会教育委員会報告書 配付	
2022年度 4	読書のバリアフリー	13（水）館長研修① 19（火）連携会議①
5	読書のバリアフリー 社会教育委員会報告書 提言・まとめについて	13（金）公民館指導員研修① 24（火）連携会議②
6		
7	実践事例について	27（水）館長研修②
8	実践事例について 市民図書館における障がい者サービス	5（金）連携会議担当者研修① 19（金）連携会議③ 24（水）指導員研修②
9		

10		25（火）連携会議④
11	指差しコミュニケーションボード【公民館編】 手話を使いながらの活用について	8（火）連携会議担当者研修②
12		
1		24（火）連携会議⑤
2		15（水）館長研修③
2023年度	**〇障がい者対象の教室・講座の開設** ■坂ノ市公民館 前期：「ふれあいボッチャ」　後期：「ふれあい卓球」　通年：「ふれあい運動あそび」 受講料：無料	

（2）どのように学ぶ機会を提供するか。

・ICT（注 9）を活用した教室・講座

〇大分市はまだ実績はなくネット環境も整っていないが、市民のニーズもあることから今後リアルとオンラインのハイブリット型の教室・講座について検討していく。

※リアル（現実）　～　相互学習・・・新たな気づきが生まれる、つながりづくりができる

※オンライン　～　自己学習・・・いつでも、どこでも、誰でも、気軽に学ぶことができる

【参考】市町村生涯学習・社会教育主管課及び社会教育関連施設を対象とした、ICTの整備状況及び事業実施状況の調査（令和４年２月　大分県）

〈明らかになった課題〉

※　　は大分市に課題があると考えられるもの　☆は大分市地区公民館の現状

（1）職員のICT習熟度

・公民館職員に「PC操作等が苦手」な人が多い

・「苦手な職員しかいない」職場・施設の対応

（2）職場のICT環境

・全職員が個別にZoomなどの Web 会議に参加する環境が整っていない

・インターネットに接続可能な部屋がなく、Zoomなどの Web 会議の集団受講が難しい

☆Wi-Fi 環境は視聴覚室のみ

（3）インターネット・Zoomなどの Web 会議の使用環境

・「カメラ付きPC」「web カメラ」を所有していない　☆一人一台はない

・Zoomなどの Web 会議のホストをしたことがない

☆Zoom有料アカウントは全庁で数が限られているので、公民館の教室・講座用として別に契約が必要になってくる

（4） インターネットを活用した情報発信

・特に公民館において、ホームページや SNS（注 10）による情報発信をしている館が少ない

☆公民館独自のホームページはないが、生涯学習情報サイト「まなびのガイド」で情報発信している

（5） 社会教育施設の利用者向け ICT 環境

・公民館では、利用者が使用できる PC 等がない館が多い

（6） 職員対象の ICT 研修の実施

・「ICT 環境整備の予定なし」が 7 市町村（18 市町村のうち）

・「職員向け ICT 研修の予定なし」が 11 市町村

（7） 住民対象の ICT 事業の実施

・実施している市町村は、同一市町村内で足並みをそろえて実施

☆必須事業として、「情報モラル向上に関する内容を含んだスマホ・パソコン教室」を実施している。

2 青年層への学ぶ機会の提供 【課題 2】

（1）公民館における学ぶ機会の提供の意義

「人生 100 年時代」において、マルチステージ（本報告書 2 頁参照）に移行し、誰一人取り残すことなく全ての人・全ての世代に学ぶ機会を提供することの重要性はますます高まっている。しかし、青年層にとって日常生活の中に学ぶ機会は多種多様にあり、SNS を活用して気の合う人との地域を超えた交流も行っている。また、青年層にとって公民館は「行く用事のないところ」であり、そもそも公民館がどこにあるのかも知らないという意見もある。（YouTube【公式】月刊公民館ちゃんねる「オンライン研修会『あなたもできる！若者集め大作戦』」より）

公民館での活動や学習のニーズが低いと思われる青年層の公民館利用や教室・講座受講を増やす意義について改めて考える。

〈YouTube【公式】月刊公民館ちゃんねる
「オンライン研修会『あなたもできる！若者集め大作戦』」より〉

○「なぜ、若者を公民館に集めたいのか」の質問に対するパネリストの発言（※抜粋）

・公民館利用者の空白世代が若者だったというだけ。
若者を集めたら、何か新しいことがうまれるというわけではない。（若者は特効薬ではない）

・若者は SNS 等自分の好きなもので楽しめる時代だが、そのためか視野が狭く、画一的な印象

スキルも乏しい。

・若者は次世代の地域を担っていくであろう世代なので、早いうちに地域に出るきっかけがあると、その後何か起きるのではないか。（次世代を育てるという視点）

・公民館は、だれでも利用できる施設なので、地域にでる練習の場としてとてもよい。

・若い世代は自分の住んでいる地域に楽しいと思えるものがないから地域の外にそれを求めている。だったら、自分たちの地域を自分たちで楽しめるようにしようという機運を高めることが大事ではないか。

・若者を交えて世代間交流することで、互いに新鮮さを感じたり何か化学反応のようなことが起こったりするのではないか。

・新型コロナウイルス感染拡大や戦争（ウクライナ侵攻等）のある時代に生きる若者は、（40 代以上の人）にはない発想やものの見方があるので、ある程度若者にゆだねるところがあってもよいのではないか。

以上、パネリストの発言から「世代間交流」「次世代育成」「青年層と地域をつなげる拠点としての『公民館』」の三つがキーワードとして挙げられる。

キーワード ：「世代間交流」「次世代育成」
「青年層と地域をつなげる拠点としての『公民館』」

（2） 青年層を対象とした教室・講座は、どのようなものがあるか。

〇大分市地区公民館における青年対象の教室・講座（令和 2 年度～）

《令和 2 年度》

・テレワーク基礎講座（大分中央公民館）【後期】 19:00～21:00（火曜日）
・メディカルアロマ教室（南大分公民館）【後期】 9:30～10:30（水曜日）

《令和 3 年度》

・メディカルアロマ教室（南大分公民館）【前・後期】 9:30～10:30（水曜日）

《令和 4 年度》

・メディカルアロマ教室（南大分公民館）【通年】9:30～10:30（水曜日）
・キャンプでデビューしま専科（大在公民館）【通年】14:00～16:00（土曜日）
・体幹エクササイズ（稙田公民館）【通年】11:00～12:30（土曜日）
・青年講座「南部未来塾」（大分南部公民館）【後期】19:00～21:00（金曜日）
・男の☆チャレンジ講座（稙田公民館）【後期】 10:00～12:00（土曜日）

○ 狛江市中央公民館

「青年教室（通称：狛プー）」

～青年（16 歳以上の男女）たちの自主活動・仲間づくりの場

学習、料理、運動、キャンプ等を企画運営しながら活動している

（5 月の内容） 毎週水曜日 19:00～21:00

自分らしい働き方やキャリアを考えよう！～10 年後に仕事で後悔しないように～

①これからの働き方について考えよう

②自分の強みを再発見しよう

③他人に目標を競ってしてもらおう

④理想のキャリアプランを実現する行動計画を作ろう

○ 福井市中央公民館

「青年講座（みんなでワクワク）」

～ 18 歳から 44 歳までの青年を対象に、仲間と楽しく学びながら、協調性や社会性を身につける。また、講座を通して自治会づくりをすすめ、自主的に活動していける「青年講座自治会」の育成を目指す。

○ 福井市教育委員会 「青年グループ活性化事業」（福井市ホームページより）

現代青年は、複雑になる現代社会の影響を受け、多くの悩みを抱えながら生活しています。そのような状況の中で、多様な人々と交流を図り、刺激を受け、仲間と共に地域に根差した活動をしていくことは、青年自身の生活を充実させ、夢と希望を与えることにつながると考えます。

青年自身が「自分たちの暮らす地域を良くしていきたい」という考えのもと自発性や主体性を培いながら、これからの地域づくりの中核を担う原動力となっていくことを目指し、福井市では平成 12 年度より公民館において青年グループ活性化事業を実施してきました。

（1）青年組織の育成、援助

・青年グループ交流会（意見交換会、スポーツ大会等）の実施

・日本青年館、福井県連合青年団主催の研究集会等への派遣

・公民館青年グループへの補助

（2）青年教育事業の振興

・各公民館における青年教育事業の展開

・指導者の育成

○ 国立市公民館

➡ （資料 4）令和 4 年 8 月『第 5 回教育振興基本計画部会事務局資料』文部科学省

「コーヒーハウス」

～ コーヒーハウスは館内ロビーにある「喫茶わいがや」と「青年室」を中心に、障がい者青年教室、青年講座、喫茶わいがや、その他イベント等の活動が相互に密接に関連しながら展開されている。コーヒーハウスは、もともと地域の若者たちが自由に交流でき

る無目的な「たまり場」であることが重視され、ここから、さまざまな活動が派生的に展開してきた。

（3） どのようにして、青年層の受講者（公民館利用者）を増やしていくか。

・青年層のニーズに沿った、魅力ある内容の教室・講座を開催する。
・青年層が受講しやすいように、曜日や時間帯を工夫する。
・公民館が、青年の居場所になるような場の工夫や催し物をする。
・ICTを活用した教室・講座を開催する。

3 ICT の活用について

「教室・講座等に参加していない人への学ぶ機会の提供【課題 1】」「青年層への学ぶ機会の提供【課題 2】」に共通した解決方法として ICT の活用が考えられる。実践実績のある「リモート公民館ひろしま」の取組を参考に大分市地区公民館における ICT の活用について考える。

（1）リモート公民館ひろしまの取組（注 11）

◆公民館リモート活用事業（タイプ別に分類）の支援

①会場を分散させて 3 密を回避した事業（館内で会場分散）
②会場とリモートのハイブリットで実施した事業
③部分リモートでの事業（講師と参加者は別の会場）
④完全にリモートで実施した事業（講師も参加者も自宅）
⑤オンライン人口を増やすための ICT 事業（Zoom 普及）
⑥ホームページ等の SNS を使った成果発表事業
⑦公民館や地域間をリモートで結ぶ事業（遠隔地交流）
⑧YouTube で配信したリモートイベント事業

◆リモート事業で広がる可能性

〇集合対面型の事業の補完にとどまらない
・今までにない「新しい公民館事業」の可能性）
〇公民館の新たな利用層にアプローチできる
・エリアを超えた「関係人口につながる」可能性）
〇様々な地域資源に手軽にアウトリーチできる
・リモートの特性を生かした地域のボーダーレス化
〇多様な学習者のニーズに応えることができる
・自分のペースで学べる生涯学習社会への可能性

離れているけど、集い・つながる感覚

（2）大分市地区公民館における今後の ICT の活用に向けて

リモート公民館ひろしまの取組やこれまでの協議から、大分市地区公民館における今後のICTの活用に向けて、次のアからエについての取組が考えられる。（カッコ｛｝内のタイプはリモート公民館ひろしまの取組における分類）

ア 広報や申込での活用
イ 教室・講座、イベントでの活用
ウ 成果物の発表での活用
エ 職員や市民の ICT 活用技術の向上

ア 広報や申込での活用

【現状】

〇大分市地区公民館

・募集チラシ～ 全戸回覧、大分市ホームページ掲載
・公民館職員による地域住民への働きかけ
・申込方法 ～ 公民館窓口、電話、はがき
電子申請（大分市ホームページ、チラシ二次元コード、生涯学習情報サイト「まなびのガイド」申込フォーム）
・どんな内容なのかは、生涯学習情報サイト「まなびのガイド」（※以下「まなびのガイド」）である程度は確認ができる

【今後】

・アナログ（紙や口コミなど）と ICT の併用
・SNS を活用した広報
・受講者による SNS を通した拡散（無意図的な広報）
・多くの人に広報サイト（大分市ホームページや「まなびのガイド」）を見てもらえるよう、動画等を取り入れる
・講座内容を確認できるよう、「まなびのガイド」を充実させる

イ 教室・講座、イベントでの活用

【現状】

〇大分市地区公民館～実績なし
〇社会教育課「おおいた人権フェスティバル」講演会｛➡タイプ③｝
〇旭町文化センター「暮らしの中の人権講座」｛➡タイプ①｝
〇子育て交流センター「オンライン子育て講座」｛➡タイプ④｝

（「おおいた人権フェスティバル」講演会）

（旭町文化センター「暮らしの中の人権講座）

【今後】

・公民館に Wi-Fi 環境を整備する（モバイル Wi-Fi ルーター含む）

・ある公民館の教室・講座を他の公民館とつないで開催する

（興味のある教室・講座があれば、遠方の公民館の教室・講座も受講できる）

・当日参加できなかった人に対して、後日 YouTube で動画を配信する

ウ 成果物の発表での活用｛➡タイプ⑥｝

【現状】

〇大分市地区公民館

・館内展示、公民館広報紙、集合型のイベント会場内展示

・「まなびのガイド」で教室・講座の様子を報告している館もある

【今後】

・YouTube で動画を配信する

・「まなびのガイド」において、教室・講座の様子だけでなく、成果物についても発信する

エ 職員や市民の ICT 活用技術の向上｛➡タイプ⑤｝

【現状】

〇大分市地区公民館

・必須講座として情報モラル向上に関する内容を含んだスマホ・パソコン教室を開催している

〇社会教育課「大分市民向けスマートフォン講座」（別紙）

〇「まなびのガイド」にアカウントのある公民館・施設等の職員対象に、「まなびのガイド」操作研修を年度はじめに行っている

【今後】

・Zoom に関する講座の検討

・職員に対する ICT 操作研修の実施

・広報➡募集➡成果物の発表 の流れを意識した、「まなびのガイド」の編集

（3）どのような場合に、ICT を活用すると有効なのか。

・障がい者対象の教室・講座（公民館までの交通手段に困難のある人等）
・子育て世代（小さいお子さんのいる保護者）対象の教室・講座
・夜間の教室・講座
・感染対策が必要な教室・講座（マスクをはずす可能性の高いもの等）
・悪天候での集合型開催が難しい教室・講座
・青年層対象の教室・講座
・エレベーターがない施設での教室・講座
・広域での交流をする教室・講座
　（例）地域住民だけでは応募が少ない必須講座など、広域で募集をかける
　（例）他の公民館との交流や遠方にある施設見学

Ⅵ 研究のまとめ

「人生 100 年時代」における生涯学習・社会教育
～人生を豊かにする学びの充実に向けて～
― 提　言 ―

大分市社会教育委員会では、いずれ到来すると予測される「人生 100 年時代」を見据えた生涯学習・社会教育の推進が重要であると考え、本研究テーマを設定し研究協議を行った。

これまでの協議をまとめ、次のとおり提言する。

1 全てのライフステージに応じ、切れ目のない学習の機会を提供する

「人生 100 年時代」においては、これまでの「教育」「仕事」「引退」の 3 ステージの人生から、さまざまなステージを並行・移行しながら生涯現役であり続けるマルチステージの人生へ転換する（本報告書 2 頁参照）と言われる中で、学びたいときに学ぶことができ自分の能力をスキルアップできるよう、全てのライフステージに応じ、切れ目のない学習の機会を提供する必要がある。そのためには、現在大分市教育委員会が行っているさまざまな事業を継続するとともに、特に公民館利用や教室・講座受講が少ない青年層への学習の機会を充実させていくことが必要である。

また、100 年という長い人生において、充実感や達成感を味わいながら生きがいをもって過ごすためにも、心身を健康に保つための学習の機会や身につけた技術・経験をいかす場の提供を、今後さらに充実させる必要がある。

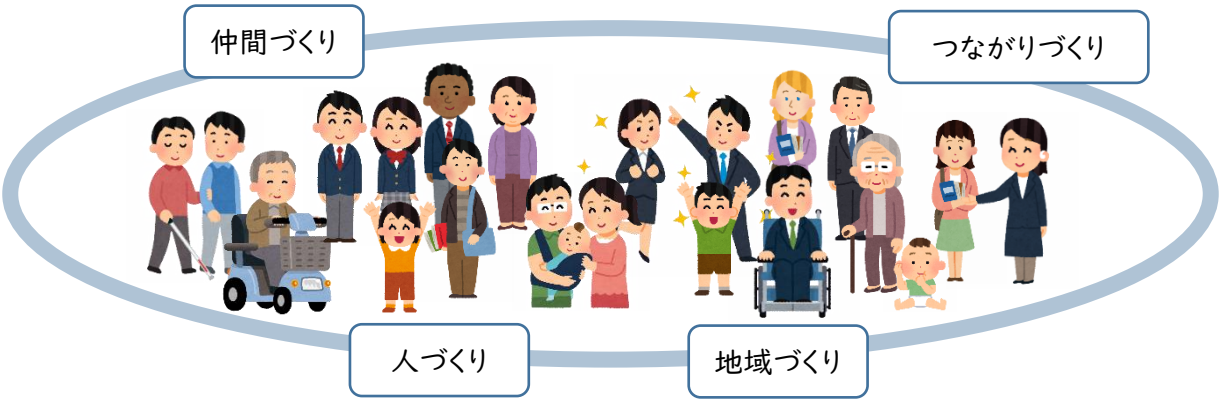
2　障がいの有無や国籍等を問わず、全ての人に学習の機会を提供する

社会教育法には「第三条　国及び地方公共団体は、～略～全ての国民があらゆる機会、あらゆる場所を利用して、自ら実際生活に即する文化的教養を高め得るような環境を醸成するように努めなければならない」と示されている。「全ての国民」には、障がい者をはじめ学びたくても学べない状況にある人も含まれることを再認識したい。また近年、労働や留学を目的とした入国や結婚を機に日本に住むようになった外国人が増えてきている中、日本国籍を取得していない外国人も、大切な地域住民であるという認識をもつことが大切である。今後は、学びたくても学べなかった人へもアプローチし、障がいの有無や国籍等を問わず、全ての人に学習の機会を提供する必要がある。

学びたくても学べなかった人へのアプローチ

3　さまざまな世代や立場の人が交流できる場を提供する

ライフスタイルや価値観が多様化する現代において、さまざまな世代や立場の人が意見を出し合い教え合うなどの交流の過程で、互いによい刺激を受け、そこから新しいアイデアやつながりが生まれることも考えられる。世代間交流で言えば、豊富な経験で身につけた知識や技能をつかって高齢世代が若い世代に対し教えられることはたくさんあるだろうし、ICT の操作や SNS でつながることなど若い世代ならではの得意分野において高齢世代に対し教えられることもあるだろう。そして、交流が深まっていけば、自ずと地域コミュニティ（注 12）が形成され、持続可能な地域づくりにつながっていくと考えられる。今後は、地域を活性化させるためにも、さまざまな世代や立場の人が交流できる場を提供する必要がある。



4 ICT を効果的に活用する

「切れ目のない学習機会の提供」「全ての人への学習機会の提供」「さまざまな世代や立場の人との交流の場の提供」を可能にする手段の一つとして、ICT の活用が考えられる。

◆切れ目のない学習機会の提供
～特に青年層に対して情報が伝わりやすく、教室・講座受講者も増える傾向にある
◆全ての人への学習機会の提供
～公民館までの交通手段に困難がある人や子育て中で外出が難しい人なども参加交流することが可能になる
◆さまざまな世代や立場の人との交流の場の提供
～ICT 操作を通した世代間交流や遠方の地域住民との交流が可能になる

しかし、ICT をただ活用すればいいというわけではない。ICT の活用は、目的ではなくあくまでも効果を上げるための手段であることを押さえておきたい。また、これまでさまざまに工夫して行ってきた紙媒体などでの広報や実際に会って集う参加方法にも大きなメリットがあることから、ICT を併用することが効果的な活用方法であると考える。

（1）アナログとデジタルを併用して情報発信する

情報発信の方法は、紙媒体によるチラシ配付や職員による声掛けなどのアナログな方法と、インターネットや SNS などのデジタルな方法とがある。

デジタルは、一度に多くの人に対して情報発信することができるし、お気に入りに登録すれば何度も内容を確認することができる。端末によっては見たい部分を拡大して見ることもできるし、口コミも広がりやすい。しかし、アクセスしなければその情報を得ることはできない。紙媒体のチラシも一人一人の手元に配付されればデジタルと同じように何度も内容を確認できるが、回覧であればコピーをしない限り手元に残らない。しかし「参加してみよう」と背中を押すのは、人からの直接の誘いや声かけである。

アナログとデジタルのこのような特徴をうまくいかし併用させることで、これまで以上に速く・広く情報発信でき、参加に結びつくと考える。

（2）リアルとオンラインを併用して、参加の可能性を広げる

これまでは、学習や交流の場のほとんどがリアル（集合対面型）での実施だったため、時間や場所等の制限により参加したくても参加できない人がいたが、オンラインを併用することによって、その制限がかからずに参加できる人が増えると予想される。また、さまざまな理由によって行けなかった遠方の施設見学もできるようになる。併用の仕方については、「リモート公民館ひろしま」の取組（本報告書 17 頁参照）を参考にするとよいが、完全にリモート（オンライン）で実施しても、その後リアルな交流に発展したとの事例もある。実際に集い交流することの効果については言うまでもないが、オンラインを併用することで参加の可能性は広がっていくものと考えられる。

Ⅶ おわりに

今回は「『人生 100 年時代』における生涯学習・社会教育」という大きなテーマであったが、現状や課題、実践事例等をもとに協議を重ねることで、「人生 100 年時代」を見据えた取組につながる方向性について提言できた。しかし、今回の 4 つの提言は、それぞれの項目で研究テーマとなりうるものであり、今後もさらに協議を重ね、具体的な取組に結びつくようにしていく必要がある。

特に、青年層への学習機会の充実に向けては、「なぜ公民館利用や教室・講座の受講が少ないのか」「青年層の学習ニーズは何か」「どのようにすれば公民館の情報が届くのか」など、明らかにしなければならないことが多く存在すると考えられる。まずは公民館職員が、地域にある青年層で構成される団体を知り、その団体とつながることからはじめるのも一つの方法と考える。また青年層の多くは働いていると考えられるので、地域貢献活動をしている企業に協力を仰いでつながりを広げていくことも視野に入れるとよい。

今回の提言は、テーマが大きいがゆえに方向性を示すにとどまったが、社会が大きな転換点を迎える中において、とても重要なテーマについて研究協議できた。いずれ到来すると予測される「人生 100 年時代」を見据えた事業を展開することは、大分市地区公民館だけでなく、全ての社会教育施設にとっても必要なことである。本提言内容が市内の社会教育施設に広がっていき、全ての人が学びたいときに学び、人とのつながりを感じながら生きがいをもって豊かな人生が送れるようになることを願っている。

Ⅷ 用語解説・参考文献

注 1： ロンドン・ビジネス・スクール教授のリンダ・グラットンとアンドリュー・スコットが書籍『LIFE SHIFT 100 年時代の人生戦略』において提唱した言葉。

注 2： 仮想空間と現実空間を高度に融合し、人々が活き活きと活動できる社会のこと。この超スマート社会の実現は、政府によって掲げられた目標であり、AI やロボット、IoT などの技術を取り入れて社会的課題を解決することを目指している。

注 3： 『第 3 期教育振興基本計画』（平成 30 年 6 月 15 日閣議決定 文部科学省）18 頁

注 4： 人生 100 年時代を見据えた経済社会システムを創り上げるための政策のグランドデザインを検討する会議として、平成 29 年 9 月に日本政府により設置され、9 回にわたって議論が行われた。平成 29 年 12 月に「人生 100 年時代構想会議 中間報告」が、平成 30 年 6 月 13 日に「人づくり革命 基本構想」がとりまとめられた。

注 5： 様々な理由で中学校で十分学べなかった人、生涯学習として中学校程度の学習内容をもう一度学び直したい人、大分の生活・文化や日本語の基礎を学びたい人（外国の方向け）対象に行う夜間の講座。

注 6： 地域の団体等が、放課後や週末等に学校の余裕教室等を活用して、子どもに様々な体験活動や学習の機会を定期的かつ継続的に提供する。地域主体型と地区公民館主体型の 2 つの形態がある。

注 7： 13 地区公民館がそれぞれの地域の関係機関・団体と実行委員会を組織し、連携・協力して地域の特色を生かした子どもの体験活動等を行う講座を実施することにより、地域力の向上を図る事業。

注 8： 市民の生涯学習を支援・推進するため、生涯学習における各種情報を提供しているサイト。各施設情報をはじめ、新着情報やお知らせ、教室・講座、イベントなどの情報提供に加えて、指導者や教材、団体・サークル等の情報も公開している。

注 9： 情報通信技術のこと。（インターネット、メール、SNS など）

注 10： ソーシャルネットワーキングサービスの略。会員制交流サイト。ネット交流サービス。
（「Twitter」「LINE」「Instagram」「Facebook」「YouTube」など）

注 11： YouTube 【公式】月刊公民館ちゃんねる
「第 33 回全国公民館セミナー オンデマンド（リモート公民館@ひろしまの活動実践）
■『リモート』×『社会教育』の可能性」

注 12： 地域をより良くするために活動する住民同士のつながりや集まりのこと。

【資料】

大分市地区公民館主催　子どもの体験活動に関する　教室・講座（令和３年度）

大分市社会教育施設　子どもの体験活動に関する　教室・講座等（令和３年度）

おおいた家庭の日推進事業（令和３年度）

大分市地区公民館主催　子どもの体験活動に関する　教室・講座（令和３年度）

※ふれあい学びの広場、体験・楽習・すこやか講座　除く

公民館	事業名	実施回数（参加者のべ人数）
大分中央	英語で遊ぼう	16 回（343 人）
	子ども茶道教室	4 回（16 人）
	夏休み（エコ）工作教室	2 回（30 人）
	夏休みジュニア科学教室	1 回（17 人）
	親子料理教室	－
	親子宇宙教室	1 回（33 人）
	おはなしシアター（読書）	1 回（75 人）
	秋の星座観察	1 回（36 人）
大分西部	サタデーバドミントン	8 回（167 人）
	楽しいヒップホップダンス	7 回（306 人）
	夏休みこども事業（焼き物・科学実験・工作）	5 回（100 人）
	わくわくふれあいコンサート	－
	子ども読書チックとタック	－
	子ども卓球クラブ	7 回（53 人）
	子ども将棋クラブ	8 回（82 人）
大分南部	英語で遊びましょう	10 回（116 人）
	子ども体操教室	7 回（116 人）
	子どもスイーツ教室	4 回（48 人）
	ふるさと自然科学体験教室	3 回（39 人）
	夏休みこども教室（読書）	7 回（104 人）
	NANBU 子ども落語	8 回（13 人）
南大分	お話ひろば（読書）	3 回（38 人）
	おもしろ科学実験教室	9 回（97 人）
	夏休み子ども教室	5 回（141 人）
	子ども料理教室	9 回（127 人）
	子どもいけばな教室	10 回（120 人）
	みなみおおいた子ども新舞踊教室	20 回（231 人）
大分東部	わくわくクッキング	7 回（69 人）
	ジュニア英会話教室	10 回（102 人）
	子ども科学体験教室	6 回（77 人）
	子どもプログラミング教室	6 回（54 人）
	おはなし広場（読書）	－
明治明野	夏休み子ども教室	7 回（153 人）
	明明ジュニア料理（お菓子）教室	8 回（105 人）
	明明おはなしワールド（読書）	2 回（63 人）

	夏休み子ども読書の日	1 回（29 人）
鶴崎	鶴崎歴史教室	5 回（20 人）
	ジュニアおやつクッキング	5 回（92 人）
	つるさき探索～しじみ貝堀り～社会見学に行こう～	4 回（83 人）
	子ども英会話教室 A・B	10 回（165 人）
	夏休み子ども竹工作教室	1 回（61 人）
	夏休み子ども科学教室	2 回（52 人）
	おいしんぼ教室	5 回（72 人）
	お出かけ読み語り教室	2 回（10 人）
	つるさき環境フォーラム	1 回（25 人）
大南	ジュニアクッキング	5 回（71 人）
	子ども国際交流クラブ	20 回（192 人）
	夏休み子ども教室	4 回（58 人）
	おもしろ科学教室	5 回（41 人）
	お話の広場（読書）	1 回（81 人）
稙田	子ども日本舞踊	6 回（32 人）
	子ども料理教室	8 回（129 人）
	お話どんどん（読書）	10 回（55 人）
	楽しいヒップホップダンス	16 回（360 人）
	夏休み子ども教室	4 回（90 人）
坂ノ市	夏休みワクワク子どもスクール	3 回（63 人）
	本となかよし	4 回（114 人）
	子ども物々交換	－
	ワクワク科学教室	6 回（103 人）
大在	作って楽しく科学実験	9 回（80 人）
	英語で遊ぶリトミック	10 回（129 人）
	楽しいおやつ作り	9 回（124 人）
	読み聞かせ紙芝居シアター	2 回（173 人）
	夏休み子ども体験教室	6 回（200 人）
	子ども環境調査隊	4 回（383 人）
佐賀関	#元気な佐賀関	1 回（70 人）
	お話でてこい（読書）	2 回（113 人）
	子ども麻雀教室	5 回（28 人）
	夏休み子ども教室	3 回（23 人）
野津原	ピーターパンクラブ（読書）	9 回（101 人）
	科学のとびら	5 回（113 人）
	チャレンジアート	4 回（67 人）
	夏休み子ども教室	5 回（132 人）
	プログラミング入門教室 A・B	6 回（69 人）

	micro:bit プログラミング教室 A・B	6 回（41 人）
	おうちにかざろうフラワーアレンジ	3 回（41 人）

大分市社会教育施設　子どもの体験活動に関する　教室・講座等（令和 3 年度）

公民館	事業名	実施回数（参加者のべ人数）
市民図書館	こどもの読書週間事業	2 回（84 人）
	夏休み事業	16 回（276 人）
のつはる少年自然の家	サイエンス&スペースキャンプ ～集まれ！未来の科学者たち～	1 回（41 人）
	ワイルドキャンプ 2021～わんぱくたちの大冒険！～	－
陶芸楽習館	親子ふれあい陶芸教室	8 回（76 人）
社会教育課	伝統芸能ふれあい教室	7 回（813 人）

おおいた家庭の日推進事業（令和 3 年度）

※内容は、地区公民館と学校の PTA（家庭教育学級等）代表者、地域の子育て支援者等が実行委員会を組織して協議し、決定する。

公民館	事業名	内容
大分中央	わくわく体験教室	グラウンドゴルフ大会
大分西部	わくわくファミリーデー	親子キャンプの基礎
大分南部	NANBU はなまるファミリーデー ～笑顔で Happy,家族で Enjoy～	陶芸作品（壁掛け）づくり
南大分	親子わくわくスマイルボウリング大会	ボウリング、おにぎりづくり
大分東部	親子でふれあい防災キャンプ	防災について
明治明野	家族の心をつなぐ「明明わくわくホリデー」 ～物語を通して～	パネルシアター クリスマス飾りづくり
大南	大南おやこの暮らしプロジェクト ～親子でミニ門松を作ろう～	ミニ門松づくり
稙田	わさだふれあいホリデー	走り方教室、体幹トレーニング 創作と防災
坂ノ市	丹小坂ファミリー	DVD 鑑賞
大在	おおざい WAKUWAKU ホリデー	防災体験
佐賀関	関 ART♪	陶芸、フラワー教室
野津原	のつはるファミリンピック ～家族でニュースポーツにチャレンジ！～	ストラックアウトなどの ニュースポーツ体験

令和４年度 大分市社会教育委員

No	氏 名	団 体
1	山崎 清男	大分大学（名誉教授）
2	河村 裕次	日本文理大学
3	首藤 誠	大分市小学校長会
4	上田 雄一	大分市中学校長会
5	平本 泉	大分市PTA連合会
6	若林 香葉	大分市公立幼稚園 PTA 連合会
7	後藤 泰範	大分市子ども会育成連絡協議会
8	石田 泰秀	大分市青少年健全育成連絡協議会
9	林 美紀	大分市青少年補導員連絡協議会
10	古代 紘子	大分市生活学校連絡協議会
11	内田 日出男	ボーイスカウト大分県連盟
12	工藤 喜賀	ガールスカウト大分県連盟
13	藤川 裕子	大分市公民館連絡協議会
14	工藤 康恵	中央地区
15	野崎 弘子	南部地区
16	藤澤 美代子	城東原川地区
17	橋口 弥生	鶴崎地区
18	中山 香織	稙田地区
19	今井 恵理	大在地区
20	立川 雅和	野津原地区